常磐毎日新聞

日刊

五月七日夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金六拾錢 郵税一錢
廣告料 普通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
發行所 平市長橋町三五 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）仙臺 四〇二〇番

天氣豫報

今晩は北の風曇後夕立模様
明日は北東の風曇

刺身庖丁を手に……
居直り覺悟の窃盗團
圖太い青年四名が共謀
炭礦荒し捕る

內郷村大字綴字一ノ坪杉山炭礦坑夫沼田道雄（一七）同村白水字天神田同礦坑夫佐藤哲男（一九）大野村大字八莖字片倉生れ同坑夫藤澤福三（二〇）（何れも假名）赤井村西小川字藤澤生れ同村字堀坂理髪業品田豊（二三）の四名は昨年四月頃から共謀で同村地內で前後十數圓の窃盗を働き此程平署に檢擧され取調べの結果驚くべき犯行を自白した、沼田、佐藤の兩名は去月十日午前二時頃內郷村大字內町字金坂飲食店箱崎與市氏方の裏口の錠を破つて黒布で覆面、兩名共臺所から刺身庖丁を持ち出し簞笥小抽斗から現金六十圓在中の蟇口及び空財布三個、バット、サイダー、魚罐詰等を窃取逃走したが藤澤、品田の兩名は表で見張り役に當つて居り、もし家人に發見されたら居直り強盗をやる積りであつたと申立て、此の豪語にはさすがの係官も驚へてゐた、尚同人等は炭礦地で前後十數回價格二百五十餘圓の窃盗を働へた旨自白七日窃盗並に強盗豫備罪で一件書類と共に送檢された

舊端午の節句に
豪壯な体操大會
六千餘の生徒群が
磐中の校庭に跳躍

プラン成る

參加人員、實に六千！「大集團一致團結」の精神を通して力強く「体位向上」を市民に呼かける第一回の平市體操大會は昨六日市役所の會議室に各係員參集協議の結果來る六月二日舊端午の節句を期して磐中グラウンドに開催されることゝなつた、參加團体は磐中、平商、磐女及び第一、第二、第三、第四の各小學校尋四以上第一、第二、片倉の三青年學校、其他私立各學校等約六千名である・これら參加團體は午前八時半迄に所定の位置に集合音樂隊を先頭に步武堂々入場、宮城遙拜に次いで國旗掲揚後國歌を合唱、會長青沼市長の挨拶、來賓の祝辭等あつて演技に移る筈であるが地方としてトップを切る催しだけに市外各地からの參觀見學者が多數に上る見込みである

尚これが委員會は明後九日午後二時から磐中會議室に開き會場の準備、演技種目等を決定する

呉服商組合が
定休日設定
商店法實施を前に
小店員の休養

平市呉服商組合にては先般理事會を開き十月からの商店法實施に先立ち來月から毎月廿日を定休日と定め十三店七十餘名の小店員の休養を圖る事となつたが當日は店員等の體位向上を期する上に野球具其他の運動具を用意し極力運動熱の鼓吹に努むる由

銃器購入資金に
小名濱有志が寄附

小名濱町漁業家にして町議田中權治郎氏並びに本町唯一の公立保證責任小名濱海産物卸商業組合長金成利惣左氏、同組合理事太田豊太郎氏と協同にて時局柄青年教育の重大なるを痛感し去る四日小名濱青年學校教練科銃器購入資金として金百五十円更に五十円を恤兵金として町役場に寄附を申出したので關係者を感激せしめた

滿蒙開拓
土の戰士
平市壯行會

滿蒙の土の戰士として將來を囑望されてゐる縣下滿蒙開拓少年義勇軍の第二回出發は間近に接つたが平市は來る十日午前十時から第一校講堂でこれが壯行會を催すことゝなつた

國語講習
平市各教員が出席

縣下各小學校教員國の語教員育講習會は今七日から二日間福島市の縣教育會館及び女師講堂に開かれるが市內各小學校からは左の如く出席した

△第一―根本榮雄、松崎吉太郎、田野入直人△第二―草野光司、叶多正壽△第三―三本杉國雄、吉田ミサオ△第四―千葉正、田邊アケ子

產看試驗
合格發表

過般行はれた本縣及茨城縣に於ける本年度第一回產婆、看護婦の試驗結果はこの程發表されたが市內南町平產婆看護婦學校の關係者は左の如く頗る好成績を示した

△產婆（福島）岩倉正子、高島ハナヨ、新妻ヨシ子、吉田テル子、作山ケイ、佐藤ナチ、吉田タマ（茨城）相川カヨ坂本マサ子、吉田タマ佐藤ナチ

△看護婦（福島）二瓶サタ子、久能靜江、星ヨシイ、鈴木トヨ子、山野邊トミ子、酒井タツヨ吉田テル子、藥谷秀子佐藤ミヨ、小菅正子、藤原スミヨ、岡崎弘子志賀キヨノ、鈴木トメノ、柴崎惠子、根本ナカ、今田初子、田中ハル、中野サツキ、國部フヂエ、瓦葺登志子、齋藤トヨ子、鹿野タツヨ、坂本トメ子、佐藤ハツ子、根本チヨ、山田綾子（茨城）鈴木スイ、鈴木トヨ子、藥谷雅子、菅野ユキ、五十嵐タイ、阿部ミサ子、志賀キヨノ、坂本トメ子、坂本マサ子、丹野サト子、岡崎弘子、佐藤ナチ、中野サツキ、田中ハト

庭球選手
日立に遠征
磐中と平商

磐中、平商兩校の庭球部は既報の如く明八日茨城縣日立製作所主催の下に開催される第一回近縣中等學校大會の制覇を目指し連日猛練習を行つてゐたが昨六日出場選手を左の如く決定發表した、兩校共當日平發午前七時四十八分で出發する

△磐中五年關原定之―同樋口儀吉、四年石田友宏―三年小齋賢

△平商五年友部六郎―同歌川慶三、五年鈴木保司―四年志賀金七郎

六十二萬個の
バットの銀紙
變じて國防獻金
是れが何んと三月間

平煙草小賣人組合では第二回銀紙の蒐集にあたり昨年十二月一日から本年二月下旬で締切つた處なんと驚くなかれ六十一貫九百匁に達しその金額百十二円六十七錢を此程組合長代表で平專賣局を通じて國防費に獻金したがこれを個數に換算すると從來のバットの銀紙は四枚（四個分）で一匁であり、昨今アルミニエームは十枚（十個分）で一匁と云はれてゐるから從來のバットで實に二十四萬七千六百個と云ふ莫大なるものになつて居り、アルミニユームでは六十一萬九千個の巨數に上りこれが僅三ケ月で煙になつた譯であると

口付に轉向
好況來に目立つ
煙草嗜好傾向

郡山地方專賣局平出張所の去月中の煙草總賣上高は八萬六千百三十圓二十三錢で昨年同期に比し三千圓の增加賣上げの主なるものは

（兩切）
△バット―四六、九六六三圓二八△曉―四、三三一圓五九△光―一六〇〇圓
（口付）△朝日―四、九九六圓七一△錦―五、一七四円七一△敷島―六二八圓
（キザミ）
△なでしこ―一二、四〇一円三八△はぎ―六九八圓七二

であるが、軍事インフレの波に乘つた常磐炭礦の好況から昨今では大衆的のバットから口付に轉向する勞働者が多くなつたと云はれてゐる

大小麥作
出穗促進

縣立農事神谷分場昨六日立夏現在大小麥作調査は

大麥早生三種平均三、三五九尺九四本、同中生三、六七五尺一〇三本、晩生三、二二四尺八六、三本、總平均三、四一九尺九四、五本で春分以降の天候は氣溫に於て平年に比し高溫で降水量は大差なく春分當時の作況に比し挽回し草丈は平年よりも良好であると、出穗は早生は三日中生五日、晩生五日何れも早く促進を示してゐる

運輸事務
平で打合せ

東京、仙臺兩鐵道局管內の現場運輸事務打合せ會は六、七の兩日午後一時から市內住吉屋本店に開會されるが出席者七十餘名水戶運輸事務所から松本運輸係長出席した

今晩歸る
修學旅行團

去る一日出發した磐女の修學旅行團は豫定のコースを無事に終了今七日平着午後七時三十七分で歸平するが二日に出發した平商の修學旅行團も同列車で歸平する

創立記念日に
―平商相撲大會

平商業學校は來る五月十日が創立記念日に當るので當日同校は全校生の相撲大會を催すことゝなり目下準備を進めてゐる

平商生の旅
（…第四信…）

早朝、二見ヶ浦を見る夫婦岩に碎ける浪は白く美しかつた。後直ちに山田へ――五十鈴川の清流で手を洗ひ、口をそゝぎ、參道を內宮へ向ふ。すが／＼しい朝の大氣の中に、神殿が本當に神々しく靜まつて居た。神前に額づいて後、外宮參拜をなす。九時橿原神宮に向ひ、更になつかしの奈良へ足を踏み入れる。神社佛閣を見學して疲れ切つた体を旅館へ運ぶ

同鄕の喜多方中學生と同宿やはりなつかしいものである。あゝ明日こそは待ちこがれて居た京都だ今晩はぐつすり休息をとらう

（五月四日奈良にて）

磐女旅日記
（―第四信―）

懷かしの故鄕を後に修學の旅に出ましてから既に四日經つてしまひました。鄕土の皆樣、私達は元氣で見學して居りますから何卒御安心下さいませ。今朝奈良猿澤池畔吉田屋旅館に於て、六時起床、八時出發、興福寺、春日神社、正倉院、二月堂、三月堂、若草山、大佛殿、興福寺の順にて見物致しました。友達が嬉しさうに聲を出して澤山遊んで居る、神鹿に食物を與れてゐる、風景が其所此所に見えました。大佛殿に於て案內人の說明を聞く度に皆感嘆するばかりでした。奈良の都は靜かです。昔の面影をそつと包んで悠久な時の流をじつと眺めて居る樣な氣持がします。年古りた建物、靜寂な趣。すべてが過去の歷史を思ひ出させて居ります一時二十分。この歷史の都を後にして、明治天皇の御靈鎭まります桃山御陵に出發致しました。桃山驛着、二時十九分、驛前から既に神聖さを感じました。物音一つ聞えない尊嚴な御陵並びに東陵にぬかづいた時、私達は非常時に際しての務を感じました。乃木神社參拜後午後五時頃無事に京都辨慶樓に到着致しました。先は御報まで

（四日、戶田たま）

◇

五日朝七時二十分出發す。京都遊覽バスにて歷史の都としての京都を見學した。東本願寺西本願寺、嵐山、北野天滿宮、金閣寺、御所銀閣寺、平安神宮、知恩院、清水寺、三十三間堂、大佛殿、豐國神社、いづれも皇統連綿たる我國体の歷史を最も雄辯に物語る名所舊蹟に富んだ古都を見學しました。嵐山は大堰川がとう／＼と麓をながれてをり、晩春の濃綠が霞々とほくかすんでゐるありさまは丁度繪を見るやうで御座居ました。嵐山にをしき別れをつげて義滿の專橫をきはめた、華美な金閣寺を見學いたしました。金泊は僅かに三階にありて日の面影をとゞめてゐました。更に車をめぐらして京都御所にまゐりました。此處は明治以後の聖帝が御卽位の式をあげられた誠に由緒ふかく、おごそかなところで御座居ます。清水寺につかれをやすめて晝食をし三十三間堂へまゐりました。三萬三千三百三十三体の佛像が安置されてゐる有樣は見事なものでございました大佛殿、豐國神社をへて旅館へ歸りました。明日は朝六時三十三分に宿を立ち午後五時三十分に熱海着の豫定で御座居ます。

（五日、宮川芳子）

小名濱校が
映寫機購入

小名濱學校に於ける本年度新計畫の一たる教材の映畫化に依つて教育を徹底せしめやうとする映寫機購入案は去る四日學務委員會にて愈々實現する事に決定其財源を研究中であつた成案立十六ミリ映寫機一臺購入費設付費公百金六百圓を先づ特志家に依つて得た寄附金百圓、殘員醵出の三十五圓、昨年度卒業生の四十圓合、計貳百五圓を基本として殘額は町內有志家の寄附にまつ事となり購入來る八月第一回の映畫會を開催せんと意氣込みである

ラヂオ
JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇 （子供の時間）幼兒童話「ネンサンノシッポ」
▼後、六二五 講演「防空と建築」工博佐野利器
▼後八、一〇 マンドリン合奏、序曲「レナータ」橫濱マンドリンクラブ
▼後八、三〇 青年學校訓練實況（上甲子園松林國防青年體育大會所）
▼後八、五〇 ラヂオドラマ「谷間の家」汐見洋外
▼後九、三〇 時報、ニュース、明日の話題、氣象通報、番組豫告

明日の部

▼後六、〇〇 （子供の時間）唱歌「臺南州青年歌」外臺南市末廣公學校兒童
▼後六、二五 講演
▼後七、三〇 日曜特輯ニュース演藝
▼後七、五五 國民歌謠（京城より）「朝」外將玉祚外
▼後八、一〇 新內「一の谷嫩軍記」（組打の段）富士松東條外
▼後八、三五 名詩物語「思ひ出」北澤彪
▼後八、五五 浪花節（大阪より）「高田馬場」雲井式部

八橋檢校に關する
文獻蒐錄
―（三）―
佐藤一男

×

三味線は永祿年中琉球より渡る。其時は蛇木を以て張る。或時堺の町人本手破手と云ふを引出し慶長の頃澤角といふ盲人琵琶の名人也しが、三味線を手練して小歌に合する。其後淨瑠璃はじめて出來たり。其後大阪加水都は柳川檢校と成、之城秀と云。此時此術を得たる故江戶表へ出來りて、其後八ツ橋檢校となれり。三味は下口にて月輪の燈心御帶杯の類なり。然るに近年味と云ふ字を入れたり。

「半日閑話」

×

永祿年中琉球國より是をわたす其時蛇皮にて張て二絃なるものなり、泉州堺の琵琶法師中小路といひける盲目に人のとらせたりけるを云々、長谷の觀音に七日參籠し彈やうを祈りしにあらたなる靈夢によりて一絃をまして三絃とせしをしばらくして虎澤といひし是を彈かため本手破手といふことを定めて是を傳ふ、其後澤往といふ盲人ありて是を彈きおぼえ歌にのせてひき出したり、それより公家武家のうちに賞させ給ふ方多く有てみづからもひかせ給ふ、其後は此器に緒をつけて頭にかけて引を用とす云々、淨瑠璃といふ事をのせて三味線を引初たるは澤往がなす所なり、然して後寬永の初め攝州加賀都城秀といふ座頭兩人堪能なる事古今に獨步せり、東武に至り加賀都は柳川檢校城秀は八橋檢校となれり柳川流八橋流といふは是なり、此兩人三味線の鼻祖たり、是によりて今世三味線の工人に八橋の柳川のといふも此名字をゆるされたる者なりとみえたり。

大幣（貞享二年）

×

文祿のころほひ石村檢校といふびは法師琉球の島にわたりけるに彼島に小弓といひて糸三筋にてならすものあり、小き弓に馬の馬の尾を絃にかけて引なれば小弓といふとぞ、石村これを採りてみるに琵琶をやつしたる物なり、糸のしらべやうも一二はびはの如く三の糸はびはの三よりも二調ほど高くあはせたるものなりと思へり、所の者いひけるは此島には眞（？）の多き所なるがラへイカといふもの有て此まむしを食物とすされぱうへイカの鳴聲小弓の音に少もちがはざる故まむしを退むが爲に專ら引なりびは法師も爰に逗留の間はひき給へといふ、其後石村京都にかへりておなじく琵琶をやつし此三味を作り出せり、流球の島より得て來るといふ心にて琉球組といふことを作り置り、弟子虎澤檢校に殘さず傳へしかば虎澤ヌ組破手といふことを作り出す虎澤より山井檢校に傳授して世に廣まる糸の合せやうは是も一二は琵琶のごとく三の糸はびはの四の糸の調子なり。

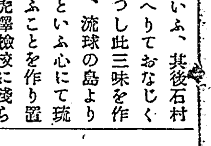
「糸竹初心集」（寬文四年）

樂聖八橋檢校
誕生の地の誇り
その偉業を後世に傳ふ
顯彰の壯圖

箏曲八橋流の開祖、名曲「六段」の作曲者八橋檢校は磐城平の生んだ樂聖である、然るに其の偉業は餘り世に知られて居ない、盲人の身にして苦辛慘憺音樂の深奥を極めた八橋の不斷の努力こそ現下の準戰時に處する國民の覺悟に鞭打つ多くの教訓がある、こゝに本社の鑑る所あり、此の樂聖誕生の地たる鄕土の誇りを永遠に傳えんが爲め、平市役所の援助に依り建像建碑其他顯彰の方途を構ぜんとし追て詳細な計劃を發表する、同感の士の切なる協力を求めて止まない、

發起 常磐毎日新聞社
後援 平市役所

白[illegible]風塵



（[illegible]）

大島多藏夫作
井川洗厓畫

（[illegible]）

……第三二…… 送別の宴（三）

『左樣、一度は御身と一緒に水野氏を殺さうと誓つた間柄だからな。はゝゝ』

『えつ！ 本當に氏が……？』

『下の六疊に待つて居る、御身も疑る程があらう、自つて來られるが好い』

『宜しい、では御免』

と、[illegible]之助は最う矢も楯も堪らぬやうに立上つて行く。

と、源太も靜かに立上つた。

『長兵衞さん、直に水野氏が參る最う暫らく御待ち下されい』

と、また源太は去つた。

が、こんどは間もなく十郎左衞門が、源太と膝を並べて主水を迎へて來た。

長兵衞も權兵衞も初對面であるし、平常の關係が妙にこんがらかつてゐるだけに、一層つゝましやかに兩手をついて迎へた。

『やあ、御苦勞でござつたのう』

と、十郎左衞門はわざと鷹揚な口の利き樣をして、設けてあつた席についた。

『今夕は大將寺樣の御周旋によりまして、わざ／＼お招きに預かり誠にこの身にとつて光榮に存じます。何卒これを御縁に此の後とも宜しく御引立てを願はしう御座ります』

と、長兵衞は殊勝に靜かな調子で云つた。

『今夜は一つ階級と云ふものを捨てゝ無禮講でお話しを致さう、まあ手を擧げられい』

『はい、何うぞ宜敷く、こゝに居りまするは弟分の[illegible]兵衞にござります』

『左樣であつたか、何うぞ宜敷く、御存知の通りの浪人者です。はゝゝゝ』

『何卒宜敷く御願ひいたします』

と、權兵衞も鄭重に口を添へた。

おきんの斡旋で、今夜は方々から美人と謳はれた遊女を狩り集めた。丁字屋のおろくも一人[illegible]しく化粧をして侍ることになつた。

ズラリと揃ひ踏みのやうに遊女は並んで主客の間に盃を取次ぐ。

[illegible]の席は盃から盃へ續いて、[illegible]くゝづれんとする光景を呈した

十郎左衞門は非常に心持好く酔つたらしい。又長兵衞も源太も權兵衞も愉快に酔つたらしかつた。

『あゝ、實に愉快い好い、これを見て俺は最う何の未練も無く江戶を見捨てることが出來るのぢや』

と、源太は愉快な顔をして、ニコ／＼しながら云つた。

『そんなことでは可かん、最う一度江戶へ歸つて貰はんと困る、なあ長兵衞さん』

と、十郎左衞門も笑顔をして云ふ。

『左樣で御座りますとも……大將寺樣は旗本奴と町奴を取結んだ縁起の好い神樣だから、是非最う一度歸つて貰はんと困ります』

『さ、俺も歸りたい。無事に歸つて參れば五萬石の大名ぢや、しかし、これは空中樓閣と云ふ奴、或は一生の夢に終るかも知れんさ。はゝゝゝゝ』

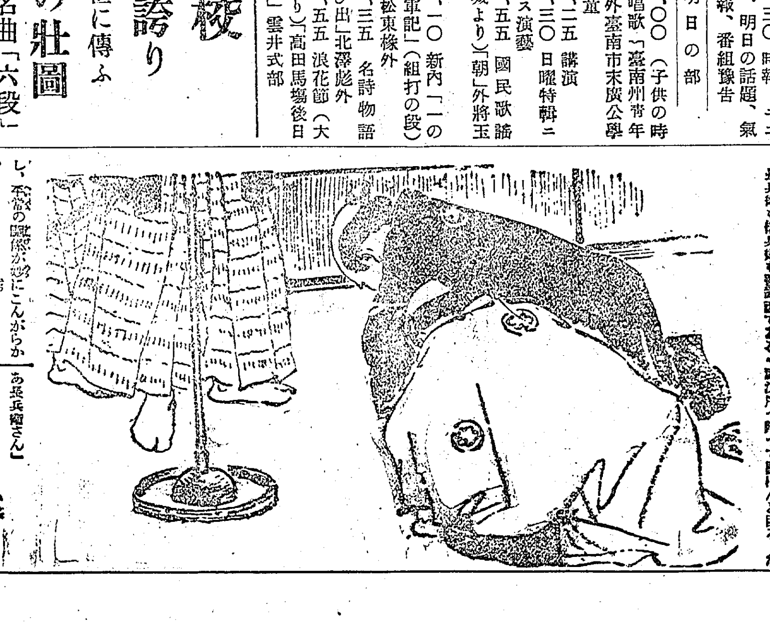
『そんな馬鹿な！』

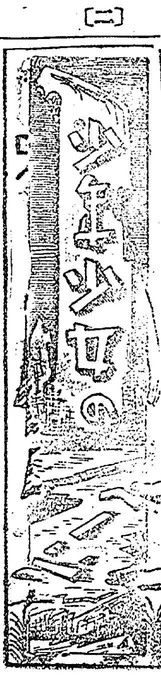
と、十郎左衞門は一言の下に打消して、

『若し貴公が命を捨てるやうなことがあつたらば、拙者と長兵衞さんは二人で、さうぢや、白柄組と町奴と合體をして紀州へ乘込むよ討ちぢや』

と十郎左衞門は稍興奮して云つた

『俺も默つて居られん、どうしたつて貴郎の不倶戴天の敵を打取らんとね』





—偉人格言名言集—

○我も富み、人も富み、而して國家の進歩發達を資くる富にして始めて眞正の富と謂ひ得る　（澁澤榮一）

○後進に告ぐ、よろしく身を國家に投じ、賢子を死生の際に盡くべきのみ　（勝海舟）

馬の軍事教練が全國に初まつた

一人前の軍馬になるには先づ三年はかゝる

馬は兵器に、交通に、運搬に、戰爭にぜひなくてはならぬ動物です。いくら機械が發達しても馬の需要は年々ふえるばかりで、世界大戰では全兵數の三分の一を越えたくらゐです。今度の事變でも軍馬がいかに活躍したかは皆さんも良く御存じでせう。馬の事を取扱つてゐる農林省の馬政局では今度各府縣の人達と協力して馬の軍事教練をやりはじめました。普通の馬はどうして軍馬に訓練されるのか、それをお話しませう

軍馬の養成所

今度馬政局ではじめたのは、元來軍隊にゐた在郷軍人が指導者となつて、普通の馬の中から軍馬の候補馬をえらんでやるのですが、陸軍では北海道、青森、宮城、熊本、鹿兒島に軍馬補充部といふのがあつて、そこで訓練するのです。そこには調教手といふ訓練兵がゐて、一般の家から二歳馬（數へ年二歳の馬）を買入れ、三年間みつちり訓練するのです。軍隊では訓練のことを調教といひます

先づ馴らすこと

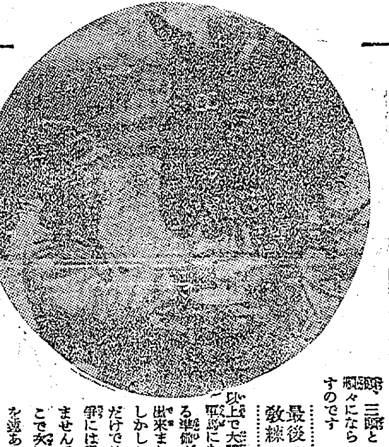
馬は蹴るものあばれるものとばかり思はれてゐるが、生れつきは非常におとなしいのです。ですからやたらに叱つてはいけません。好きなニンジンとか生草などを與へて、やさしくいたはつてやるのです。性質が惡い馬は始めいふことを聞かないで、けつたりあばれたりすることがあるのですが、兵隊さんはそれでもしからず、頸をなでて馴つく迄いたはつてやるのです。兵隊さんは馬は自分の子供だといつてゐます

馬場運動

少し馴れたら馬場で一匹づゝ行進を訓練します。はじめは常歩（一分間に百米）次に速歩（一分間に二百米）その次に駈歩（一分間に三百米）と日をおつてだん／＼訓習させます。それが出來たら今度は五六歩づゝ距離をおいて一列縦隊をつくらせ、道路をあるかせます。皆がおとなしくなつて來たら二頭づゝならべてあるかせ、途中で人や車にあつてもおどろかぬやうにをしへます

集團教育

普通の馬は訓練されるまでは野良にゐたものが多いから、なか／＼同隊行動は取れない、おとなしい馬をけとばして迷惑をかける馬もある。そこでまづおとなしい馬から順々に、一頭宛とめたまゝを近よらせて仲よくさせます、二頭、三頭、四頭と數を増してゆきますが、これを馴致集合といひます。一番むづかしいのはお尻とお尻をつき合せてあつまらせる後驅集合で、これは時々けり合つて兵隊さんを泣かせることがあります。しかし訓練上一番大切なのは何といつても忍耐です。氣のあらひ馬同士は出來るだけ近づけぬやうにし、二頭、三頭と順々にならすのです

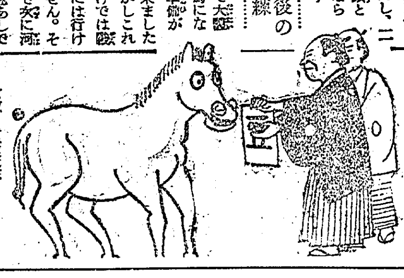


最後の教練

以上で大體軍馬になる準備が出來ましたしかしこれだけでは戰爭には行けません。そこで次に河を渡あしで渡らしたり大砲の音を聞かせたり、高いとこ

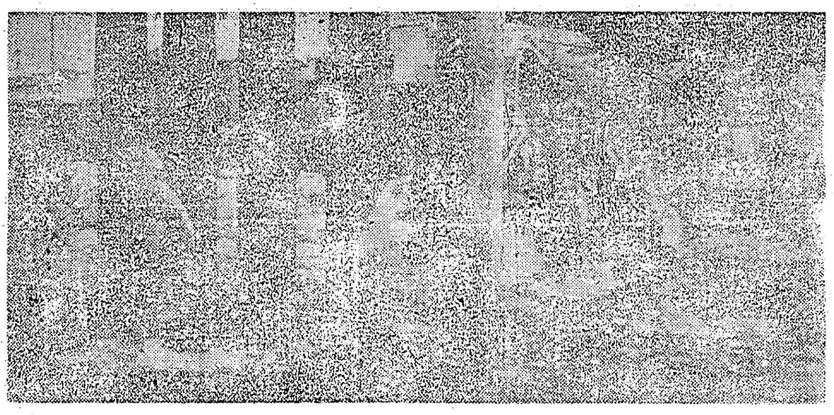
みをとばせたりするのです。旗の色や紙にびつくりしないやうに馴らします。戰爭でも地雷を見て驚くものがあるからです。かうしてはじめて軍隊へ出るのですが、馬が一人前になれるのも兵隊さんの三年間の汗と努力があるからです

馬は豆の字が嫌ひ



富田高陽が鐵嶽先生にはじめて教を乞ふたときの話である

鐵嶽先生はまづ高陽にむかつて、「貴殿はなか／＼の學者と承つてをりますが失禮ながら、豆といふ字を御存じですか」と問はれたので高陽はいさゝか腑におちない様子で「はい存じてをります」と答へました、そこで鐵嶽先生は、「ではこれへ書いて見なさい」と紙を差しだしました。高陽は謹んで筆をとり肉太に豆の字を書きました、鐵嶽先生は下男をよんで豆を盛つたノミを廐前に運ばせ廐から馬を引かせ、豆の字を書いた紙と、一握り豆を馬の鼻づらにつきつけておもむろに高陽にむかつて「どうぢや兩方が豆だが貴殿のかいた豆と畜生のつくつた豆とどちらをたべるだらう」といはれ美味さうに豆をたべてゐる馬を前にして學問の本旨を教へられたとの事であります。學問も實地に役立て、身を修め世を益してこそ、眞の學問は人の爲どころか馬のためにもならない、學問の要諦はここにあります



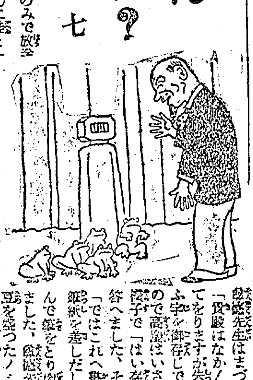
クリークを渉る我軍

わが猛攻にたまりかねた支那兵は退却する時、我軍に追撃されるのを恐れて橋を破壞して逃げました。而し勇敢なる我軍は、身體がぬれて冷たい事などは物の數ともせず、ドシ／＼クリークへ飛込んで敵を追撃しました。

おはなし

蛙の小父さんなぜ死んだ？

南澤十七



千朗のおぢさんは今年六十になりました。息子さんはこの間、蛙のとぶのとオリンピック選手のとぶ力とをくらべて、非常にそれが役に立つといふので、醫學博士になつたばかりです。

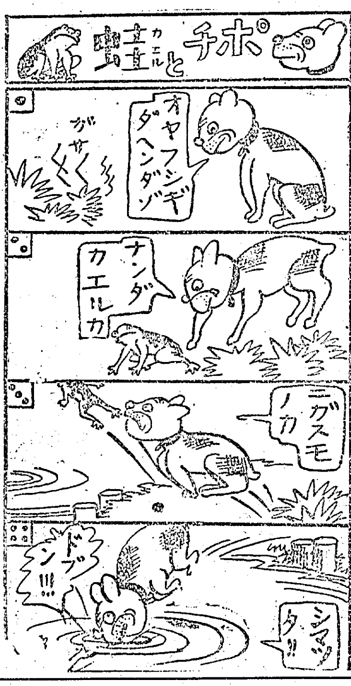
この千朗のおぢさんが或る日の「子供の時間」に蛙の鳴き聲を色々と本物の蛙と一しよに放送してゐる最中に急に死んでしまつたのです。

千朗のおぢさんは何の生れかわりか知りませんが、動物の鳴き眞似が非常に上手であります。大抵の動物の鳴き眞似はするのです、その中でも一番千朗おぢさんの上手なのは、うぐひすと雞と猫と犬などですが、殊更に蛙の鳴き方はもつとも上手です。面白いことには、この千朗おぢさんが田圃で蛙の鳴き聲をすると、どういふわけですか、のこのこ何處からともなく、色々の蛙が千朗のおぢさんの所へあつまつてくるのです。そして上にはね上つたり、膝の上に來たり、足のまわりに來たりしていつの間にか二三十匹になることはめづらしくありません。他の動物の鳴き聲もうまいのですが、こんなに呼びよせるところまでは行きません。

それでありますから、千朗のおぢさんはこの蛙を自由にあやつる事が出來るのです。

そこで今度放送局のたのみで放送をする事になつてさかんに蛙と一緒に鳴いたり又合唱をしたり、この鳴き聲の意味を説明したりしてゐるうちに、急に死んだのですからおどろきました。早速と病院にかつぎこんで、色々と診察しましたが少しも様子が變ではないので不思議の中に時間が經つてしまひました。皆靜かに悲しんでゐる最中、ギーと咽喉が鳴つたので、あわてゝよく見ると口の中から緑色のかへるが出て來ました。それでこれについて、いろ／＼と議論が出てゐるらしいのです。それは放送中にとびこんだかへるか、それとも千朗をぢさんの生れかはりのかへるといふわけです。

—をはり—

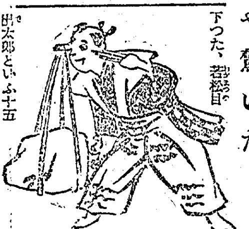

蛙とチボ
オヤフシギダヘンダゾ
ガサ／＼
ナンダカエルカ
ニゲスモノカ
ドブン!!!
シマッタ!!

目だまの藝當

◇こりや驚いた

驚いた時なんか、よく目玉が飛出すといふ言葉を使ひますが、ほんとうに飛び出すでせうか？　その飛び出した目玉で力持ちをやるといつたらなほ更不思議にはしないでせう

◇



天保十一年十二月大阪から江戸へ下つた、若松目出太郎といふ十五歳の少年は、目玉で力持ちをするといふので非常な評判であつた。この男が舞臺に上つていよいよ藝當に取りかゝり持つてゐる扇の端を一寸突つくと兩方の目玉がピョコンと飛出す。其目玉へはじめは近江の石をつるし、次いで醬油樽の中味の入つたのをつるし、更に四斗俵をつるし、最後には錢五貫文をつるして舞臺の上を走り廻つたといふ話があります。目玉で人氣を取つたのは、尾上松之助ばかりでなく、ずつと前にこの若松目出太郎といふ少年があるわけです

不滅のシンボル

（映畫上映）

郡司次郎正

大澤逸子

…第七回…　今朝の心（3）

漸く夢を破られたか、階下から駈け上つて來るものや、障子をがたぴしと開ける音や、騒々しく廊下を走る人などの騒が、彼方此方に起つて、靜かな病院の中が俄に騒然として來た。

人々の口からいろ／＼の噂が出た。

するうち、階下で電話を掛けてゐる聲が杏二の耳に入つた。

『旭町！』

と言ふ聲が聞えると、杏二はハッとして、理性に撥ねられた人のやうに其處を離れて、階下へ駈け下りたのであつた。

亂打される鐘の音に、胸は一層高鳴る。電話室へ入つて愈々それと確めた時には、杏二は足の顫へを覺える程動顛してゐた。

この騒ぎも知らないで熟睡してゐる看護婦の寢姿に最初反感を起した杏二は、鐘と火事を知らせまいかと思つたが、現場が旭町と聞いては默つてもゐられなかつた。

杏二に揺り起されて、漸と目を覺ましたお瀧は、火事だと聞いて悲鳴を上げた。

『伯父さんの家は旭町のどの邊です？今晩に限つて二人まで泊つてるんだからなあ』

火の手が益々燃え上るのを見乍ら、杏二は胸をわく／＼させた。併し、お瀧も杏二と同じくまだ一度も其家へは行つた事がないので二人の問答は要領を得ない。

杏二は急いで行つて見ようと思つて、默つて立つたのである。

『一寸待つて頂戴。私も心配だから……』

お瀧が呼び止めた。

『なアに、逸子はよく寢てるから……』

今まで自分は豚のやうに眠つてゐたくせにと思つて杏二は口惜しく嘲けりを含ませながら言ふ。

と、其時杏二に電話がかゝつて來た、伯父の家が類燒に會つたといふことを耳にした時には、流石の彼も絶ち色を失つてしまつたのである。

外へ出ると、雨は止み加減であつたが、風足は少しも衰へず、身を切られるやうな寒さだつた。

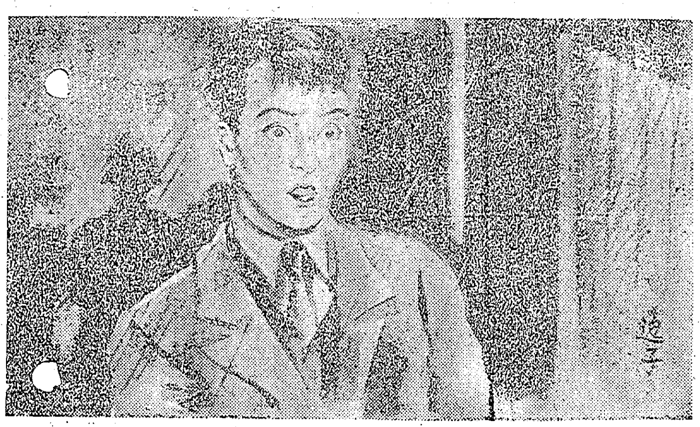
現場へ近付く程火勢は物凄く彼の前に迫る。四邊は騒然として一層人心を浮立たせた。丸となつて飛散する火の子を、今夜ばかりは彼は美しく見ることが出來なかつた。渦を卷いて吹き上げる紅蓮の焔を目のあたり見ては、今の電話のことが耳を疑ふて、火に正面し得ない程心は慄え戰いた。

『……行方不明……麻子さんも、伯父も、あの恐ろしい火中に？……馬鹿な、そんなことが……』

激しく自分の心を叱咤しながら杏二は群がる群衆の中を夢中になつて駈け廻るのだつた。……消防手と巡査と群衆とが、そこら一面にたゞ騒擾を極めてゐた。

異様な物音を發しつゝ、火は愈々燃え盛つてゐた。消火栓を開いた消防夫が、折惡しく降り出した豪雨の中をぐれそばれながら、狂氣のやうに右往左往してゐた。類燒の家に避難を據へた人々の顏が、パッと火に照らされて、どれもこれも惡夢に怯えられてゐた。

『人死があつたさうだな……』



逸子

美味！芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

三井タクシー
平二　電話六八五番

食事 喫茶 酒場を兼ねた
レストラン
サロン
平市田町
電二五三

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話五八番

…春と共に開店致しました
御料理
"むぎとろ"
是非！御試食下さい。
平市田町紅小路
さつき
三益隣り

初夏!!
カメラの絶好シーズン
新緑を追ふて！
日曜はカメラ
手にくピクニック
誰方にも初めから立派な御寫眞が出來る手頃なカメラが澤山入荷しました。
カメラと材料店
いづみやカメラ部
平市驛前

開店
和文 歐文 タイプライター
謄寫版
事務用品
文房具
どこよりもよい品を
どこよりも安く買へる
便利な専門店

謄寫版（ハガキ）	二圓ゟ
謄寫版（半紙版（一式付）	二十八圓ゟ
二穴パンチ	六十二錢ゟ
萬年スタンプ臺（三寸）	三十六錢ゟ
紙綴器	二圓二十錢ゟ
番號器	四圓七十錢ゟ
ゼムクリップ百個入	三錢五厘
計算尺	六十錢ゟ
インキ消	八錢

タイプライターばかりではありません。新しく良い品とを安く専門的に御取扱ひして居ります。どうぞ御散歩がてら御出かけの程お待ち申して居ります。

邦文・歐文タイプライター各種
計算器・輪轉謄寫機各種
謄寫版及附屬部分品一式
宛名印刷機・金錢登錄器
金庫・並ニ最新事務用品一式
福島縣平市田町五十七地番
藤森事務用器商會
電話三七〇番
賣買、修理、交換、印書引受
振替　東京　五二二三番　七〇四七番　仙臺　五一〇番
電信略號（フ）又ハ（フニ）

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際　電話三〇九

近眼！老眼！亂視眼!!!用
メガネ澤山取揃へて御座います
是非!!一度！御來店下さい
正確ト勉強ノ店
玉屋メガネ店
平市一丁目

◎評判の美味しい
"みつ豆"
蜂密入フルーツみつ豆
東京風アンみつ豆
電話二八
福壽軒

通勤女店員募集
一、高等小學卒業程度
一、市内居住の方
一、年齢十八歳―二十二歳迄の方
一、確實なる保證人を要す
御希望の方は履歴書持參ありたし、詳細面談
平マーケット
平市田町（電話七〇番）

フケで頭の痒ゆい方に……
三共のサボイド石鹸の御使用をおすゝめ致します。
本石鹸は最上の原料により製せられた硫黄コロイド石鹸ですから、其他あらゆる皮膚病の方が用ひてよろしく、又、皮膚病豫防の目的にて常用されれば美容と衛生の上から非常に喜ばしい効果をもたらします。
1ケ20セン
三共株式會社代理店
西村屋藥局
平市本町二丁目　電話三番

喜多流謠曲と仕舞のお稽古をお奬め致します
入會隨時
平市田町六九
喜多流 謠曲 仕舞
白土會
電話二一七番